

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年11月22日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	
		議員名	佐貫尚子
派遣者氏名	厚地弘行・佐貫尚子 ・中田哲		
視察先及び調査事項（調査目的）	山形県尾花沢市 市民マラソンの取り組みとアーバンスポーツ施設について		
日 時	令和5年11月14日（火） 13時00分～14時30分		
視察先対応者	社会教育課長 鈴木賢氏 社会教育課生涯学習スポーツ主査 富樫久芳氏 商工観光課観光物産係長 笹原聖志氏 議会事務局		
（調査結果の概要及び所見）			
【調査結果の概要】			
尾花沢市政の沿革 昭和34年4月10日 市制施行 これまで合併の経緯もある			
財政状況：一般会計予算 令和5年度歳入 12.742000 円			
歳出 12.742000 円			
人口推移 令和5年度 人口14282人			
令和2年時点 生産年齢人口 7280人 高齢人口65歳以上 6232人			
議会：定数14人 うち女性議員3人 最高齢72歳 最低年齢39歳			
尾花沢市の特徴： 花笠音頭で有名			
令和4年度尾花沢市ふるさと納税9億9801万9439円			
人気メニュー 尾花沢すいか 1玉8000円～			
霜降り和牛尾花沢 20000円～			
银山温泉宿泊補助券35000円～			
霜降り和牛が人気であるが、尾花沢市の肥育頭数13900頭			
人口減が大きな課題 住宅関連補助事業にも力を注ぐ。			
以上			

山形県尾花沢市花笠マラソン ファミリーの部・ウオーキングの部の取り組みについて

概要

三田市は師走の一大イベントとして三田国際マスターズマラソンが開催されているが年々参加者が減少していることから、三田のマラソンの在り方を見直す時期にきていると考え、多くのランナーや市民で賑わう山形花笠マラソンについて視察を行った

花笠マラソン～ファミリーの部・ウオーキングの部の取り組みについて

花笠マラソンは毎年5月3日開催となっている。マラソンの参加者を増やす取り組みとして同日に徳良湖まつりを開催されている。ランナーに尾花沢市の味覚や子供向けのイベントを開催することで集客に工夫をされている。

実績

現在は種目として徳良湖周辺 個人の部（4周）（1周）

ファミリー部（1周） ウオーキング部3, 5kmの4つのプログラムで運営

令和5年5月3日開催の実績として4つのプログラムの参加者は900人

今年度は1000名を定員とし募集したが1000名前後が道幅や時間帯を考えると許範囲であり、これが限界とのこと。

集客により駐車場の確保に苦慮されているとのこと。

参加賞 完走証 Tシャツ デザインは変えず色を変えている

徳良湖温泉入浴券、芭蕉、清風歴史資料館入館券 ウオーキングの部は完歩証

参加賞にも地元地域に立ち寄ってもらう工夫がされている。

本年度大会ゲストとして本市のふるさと大使としてパラリンピックのメダリスト

東京オリンピック選手を招待 毎年変わるとのこと

マラソンのエイドステーションを3年ぶりに開催し市の和菓子店などに協力もあり、一口大にしたお菓子などを楽しんでもらう地域の活性化にも工夫されている。

所見

大きなマラソン大会ではないが、徳良湖まつりを同日開催することで集客ができ徳良湖周辺に賑わい創出ができることが素晴らしい。

記録を狙うランナーもいるとのことですが、ファミリー部門やウオーキングの部門の参加者が10分遅れでスタートするなど、分け隔てがなく、市民のマラソン大会と感じた。花笠マラソンと徳良湖まつりが一体化されておりマラソンだけではなく、同時にランナー以外の人々が楽しめる事が賑わいの創出につながっている。

課題はあるとしても、大会を継続し開催することの意味が大いにあると感じた。

三田国際マスターズマラソンもランナーにとって1年の締めくくりの大会であると思うが、参加者減少を食い止める方策、ランナー以外にも楽しめる師走の三田に行けば楽しいことがあるといった取り組み、アイデアを出し合う時期にきていると感じた視察であった。個人事業主への協力依頼も大いにすべきではないかと思う。

徳良湖パンプロックについて

概要

パンプロックとは、路面の凹凸や壁のあるカーブをバイクへの荷重の変化で加速をつけてテクニックを競うことなどや、自転車やスケボーで楽しむことができ、主に野外に設置し、冬季の間は解体して保管をすることが出来るものもある。

こうしたパンプロックが1つのアウトドアスポーツでもある。

実績

購入金額572万 国等の補助はなく、ふるさと納税の一部をあてている。

国等の補助はなし。外国製

運営方法：徳良湖周辺施設の指定管理者「株 尾花沢市ふるさと振興公社より

業務委託された「OBNAZAWA ACTIVE FIELD 合同会社合同会社」が運営

施設の開設期間4月下旬～11月上旬

利用料金市内高校生以下無料 大人400円 高校生市外300円大人400円

時間帯によりライトが必要な時間になるため、17時から20時まで高校生変更なし
市内大人500円市外600円と100円ずつ増額になる。シーズン券もあり。

実績として令和5年度の利用人数は2569人

パンプロックの設置場所は尾花沢市郊外の徳良湖で徳良湖周辺整備マスタープランの中で位置づけられている健康増進ゾーンに設置。周辺に民家がないため苦情はなし。来場者のニーズにどこまで応えられるのか判断に苦慮しており、道具の種類やコースの難易度などがある。

受託者が独自にスケートランプを設置し利用者が増えており、ランプが公式大会仕様のため大会前に多くの利用者が訪れる。受託者が積極的に独自にイベント開催もしている。

所見

雪深い山形においてアウトドアスポーツを取り組んでおられるとのことで視察をおこなった。三田市においてもアウトドアスポーツ、アーバンスポーツを取り組める環境ではないかと言った声もよく聞く。しかしながらこうしたスポーツに取り組む年齢は10代からの若者が取り組むなかで、何時でも訪れる事の出来る場所は限られており、設置場所が三田市においては課題だと個人的には考える。

尾花沢市はマスタープランの中でうたわれたこともあって、そのような競技に取り組む若い世代が積極的に、選手の育成や大会運営などが行われている。

こうした背景をみると、まちの活性化を真剣に取り組む世代とタッグを組むことでニーズに応えられる取り組みができるのではないかと思う。近くの八幡市には公式に行えるランプがありそれ以上に尾花沢市もより良い施設となるように取り組んでいただきたい。雪が多い山形でアウトドアスポーツに積極的に取り組む姿勢は三田市も見習っていただきたい。